

●発表日:平成27年(2015年)3月24日

田原市博物館春の企画展

「帰ってきた国指定重要文化財 渡辺崋山筆千山万水図
～初公開 奈良岩雄氏寄贈資料」

渡辺崋山の代表作、国指定重要文化財「千山万水図」と崋山の友人である桜間青厓・岡本秋暉、弟子の椿椿山・福田半香・平井顕斎、渡辺小華・松林桂月をはじめとする崋椿系画家の作品も展示します。

- 1 会 期 平成27年4月11日(土)～5月24日(日)
休館日 毎月曜日(祝日の場合は翌日)ただし、5月4日は開館し、5月7日(木)は休館します。
- 2 開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 3 会 場 田原市博物館
- 4 観覧料 一般400円(320円) かつこ内は20名以上の団体割引料金です。
小・中学生は無料、毎週土曜日は高校生無料。
初日の4月11日(土)は無料公開します。
- 5 主 催 田原市博物館
- 6 期間中の催し物
 - ◎講演会
5月3日(日) 午後1時30分 演題「渡辺崋山の海防思想と千山万水図」
崋山会館鶴の間 入場無料 講師 常葉大学特任教授・文学博士 日比野秀男氏
 - ◎展示解説
4月11日(土)・5月6日(水・祝)いずれも午前11時 当館副館長 観覧料が必要
同時開催 田原藩～藩日記の出来事から

※別添のちらしをご覧ください。

(担当) 田原市博物館 鈴木 電話 (0531) 22-1720

千山万水図
天保十二年五月五日
渡辺崋筆

田原市博物館 / 平成27年 ● 春の企画展

帰ってきた国指定重要文化財

渡辺崋山筆

千山万水図

初公開 奈良岩雄氏寄贈資料

平成27年 4月11日(土) — 5月24日(日)

- 開館時間 — 午前9時—午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 — 毎週月曜日 ● ただし、5月4日(月)祝は開館し、5/7(木)は休館します。
- 観覧料 — 一般400円(320円)、小・中学生無料
- 4月11日(土)は無料公開。● () は20名以上の団体割引料金。● 毎週土曜日は高校生も無料。● 吉胡貝塚資料館(シエラマよし)との共通券もあります。



渡辺崋山の代表作、国指定重要文化財「千山万水図」と崋山の友人である桜間青厓・岡本秋暉、弟子の椿椿山・福田半香・平井顯斎、渡辺小華・松林桂月をはじめとする崋椿系画家の作品も展示

【同時開催】田原藩～藩日記の出来事から

田原市博物館

〒441-3421 愛知県田原市田原町巴江11-1
TEL 0531-22-1720
<http://www.taharamuseum.gr.jp>

入場割引券
本券と博物館
券付お楽しみ
品付(ただし)



岡本秋暉筆「雪中花鳥図」

田原市博物館／平成27年●春の企画展

帰ってきた国指定重要文化財 渡辺華山筆 千山万水図

～初公開 奈良岩雄氏寄贈資料



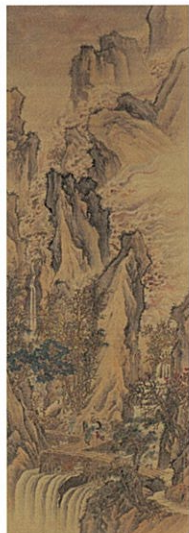
桜間青厓筆「太公望・孔明図」



松林桂月筆「水仙」



福田半香筆「青緑山水」
天保6年(1835)



平井顕斎・山本架谷筆
「蜀棧道」／嘉永4年(1851)



渡辺小華筆「九清図」
明治10年(1877)

奈良岩雄氏について

岩雄氏の祖父である奈良磐松(1879～1961)氏は、元秋田銀行頭取・金足村村長、秋田蘭画の収集家としても知られました。その後、奈良家の資料は奈良淳一郎・奈良恭三郎(元秋田市収入役)氏から岩雄氏に引き継がれました。貴重な最晩年の渡辺華山作品をはじめ31点が田原市へ寄贈されることになり、全作品を一堂に公開します。

企画展イベント

【講演会】5月3日(日・祝)／午後1時30分～

「渡辺華山の海防思想と千山万水図」

講師：常葉大学特任教授・文学博士 日比野秀男氏

【展示解説】4月11日(土)・5月6日(水・祝)／各回午前11時～

田原市博物館／副館長 鈴木利昌

主な作家紹介

◆渡辺 華山 [わたなべ かざん]
寛政5年(1793)～天保12年(1841)

華山は江戸麹町田原藩上屋敷に生まれた。絵は金子金陵から谷文晁につき、人物・山水画では、西洋的な陰影・遠近画法を用い、日本絵画史にも大きな影響を与えた。天保3年、40歳で藩の江戸家老となり、困窮する藩財政の立て直しに努めながら、幕末の激動の中で内外情勢をよく研究し、江戸の蘭学研究の中心にいたが、「蛮社の獄」で高野長英らと共に投獄され、在所塾居となった。画弟子たちが絵を売り、恩師の生計を救おうとしたが、藩内外の世評により、藩主に災いの及ぶことをおそれ、天保12年に田原池ノ原で自刃した。

◆渡辺 小華 [わたなべ しょうか]
天保6年(1835)～明治20年(1887)

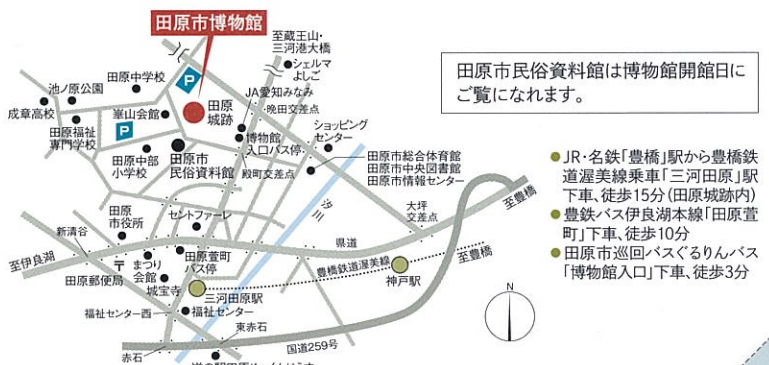
小華は華山の二男として江戸麹町に生まれた。華山が亡くなった時にはわずか7歳であったため、華山からの影響は多くなかった。その後、弘化4年(1847)13歳の小華は田原から江戸に出て、椿椿山の画塾琢華堂に入門し、椿山の指導により、花鳥画の技法を習得した。江戸在勤の長兄立が25歳で亡くなったため、渡辺家の家督を相続し、幕末の田原藩の家老職や、廃藩後は参事的重要職を勤めた。花鳥画には、独自の世界を築き、宮内庁(明治宮殿)に杉戸絵を残すなど、東三河や遠州の作家に大きな影響を与えたが、53歳で病没した。

◆福田 半香 [ふくだはんこう]
文化元年(1804)～元治元年(1864)

遠州磐田郡見附(現磐田市)の出身で、最初掛川藩の御用絵師村松以弘(1772～1839)についた後、天保年間に江戸に出て華山についた。蛮社の獄後、田原に塾居中の華山を訪ね、その貧しさを嘆き、義会をおこす。この義会が華山に対する藩内外の世評を呼び、華山は自刃の道を選ぶことになる。花鳥山水いづれもよくしたが、椿山の描く花鳥に及ばぬと考え、山水画を多く残した。安政3年(1856)12月自宅が全焼すると、同5年2月まで麹町の田原藩邸に仮住まいし、藩士に画の指導をしていた。晩年江戸根岸に隠棲した。半香は華山の死の原因になったことを自責し、自らの死後は、渡辺家の菩提寺小石川善雄寺に葬るよう遺言した。

◆松林 桂月 [まつばやしけいげつ]
明治9年(1876)～昭和38年(1963)

山口県萩市に伊藤篤一の次男として生まれた。名は篤。明治27年(1894)に上京、野口幽谷に師事した。同31年に幽谷門下の松林雪貞と結婚し、松林姓を名乗るようになる。明治41年第二回文展から出品し、第五回から第八回まで連続三等賞を受賞する。昭和8年(1933)帝国美術院会員、同19年帝室技芸員となり、同33年文化勲章を受章。近代日本南画界を代表する作家である。



〒441-3421 愛知県田原市田原町巴江11-1
TEL 0531-22-1720
http://www.taharamuseum.gr.jp

木につまみ名
田原市に
しただけ